

中野区教育委員会会議録

令和7年第31回定例会

令和7年11月14日

中野区教育委員会

令和7年第31回中野区教育委員会定例会

○日時

令和7年11月14日（金曜日）

開会 午前10時00分

閉会 午前11時14分

○場所

中野区立中野第一小学校 ランチルーム

○出席委員

教育委員会教育長 田代 雅規

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

教育委員会委員 岡本 淳之

教育委員会委員 高野 治人

教育委員会委員 平本 紋子

○出席職員

教育委員会事務局次長 石崎 公一

参事（子ども家庭支援担当） 森 克久

子ども・教育政策課長 神谷 万美

学校地域連携担当課長 保積 武範

指導室長 井元 章二

学務課長 佐藤 貴之

子ども教育施設課長 原 太洋

中野区立第一小学校校長 三宅 慶進

○書記

教育委員会係長 藤井 玉枝

教育委員会係 網野 愛子

○会議録署名委員

教育委員会教育長 田代 雅規

教育委員会委員 高野 治人

○傍聴者数

15人

○議事日程

1 協議事項

「コミュニティ・スクールについて」

①コミュニティ・スクールについて（子ども・教育政策課学校地域連携担当課長）

②コミュニティ・スクールについて（中野第一小学校）

○議事経過

午前 10 時 00 分 開会

田代教育長

おはようございます。定足数に達しましたので、教育委員会第 31 回定例会を開会いたします。

なお、本日は地域での教育委員会として開催するものです。中野区において開かれた教育行政を一層推進するために、区役所以外の場所に会場を移して開催しているもので、今回で 46 回目の開催となります。

会議の進行につきましては、通常のエ育委員会と同じように進めてまいります。

ここで傍聴の許可についてお諮りをいたします。

教育委員会の会議における傍聴人の数については、中野区教育委員会傍聴規則第 3 条により、20 人以内と定められております。

本日は、傍聴を希望される方が 20 人を超えておみえになる場合がありますので、同規則第 3 条ただし書の規定により、20 人を超えて傍聴することを認めたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田代教育長

ご異議ありませんので、20 人を超えて会議を傍聴することを認めることに決定いたしました。

ここでお諮りをいたします。

本日は、株式会社ジェイコム東京から、取材のため教育委員会の会議を撮影したい旨の申出がありました。会議を撮影する場合には、教育委員会の承認を受ける必要があります。これを承認したいと思います、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田代教育長

ご異議ございませんので、会議の撮影を承認することに決定いたしました。

なお、撮影に当たりましては、会議に差し支えないように行っていただきますよう、よろしくお願いいたします。

また、傍聴の方を撮影される場合には、個別に了解を得てから行っていただきますよう、お願いいたします。

それでは議事に入ります。

本日の会議録署名委員は高野委員にお願いいたします。

本日の議事はお手元に配付の議事日程のとおりです。

それでは日程に入ります。

冒頭でご説明いたしましたが、本日は地域での教育委員会として協議事項を「コミュニティ・スクールについて」として、テーマに関連して中野第一小学校の校長先生にお話を伺う予定でございます。

また、協議事項の終了後、会議を一旦休憩し、協議テーマに関しまして、傍聴の方のご意見をいただく時間を設けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

<協議事項>

田代教育長

それでは協議事項「コミュニティ・スクールについて」を協議いたします。

初めに、学校地域連携担当課長から、区の実践についてのご説明をした後、第一小学校の三宅校長先生から取組等について紹介していただきます。その後、教育委員の皆様からご意見を伺い、協議を進めてまいります。

それでは、初めに事務局から説明をお願いいたします。

学校地域連携担当課長

皆様、おはようございます。学校地域連携担当課長をしております、保積と申します。

私のほうから、コミュニティ・スクールについて、概要をお話しさせていただきます。

まず、「コミュニティ・スクールとは」というところでございます。

昨今、グローバル化や急速な情報化、技術革新など、急速に様々な変化が生じまして、価値観が多様化する中において、子どもたちにとってよりよい教育環境や学校の改善というものを実現していくために、学校だけではなくて家庭と地域がともに話し合い、よりよい学校の運営について考える機会が必要と考えられてきております。このような学校と地域の話し合いの場が学校運営協議会です。

コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置している学校のことを申します。地域の知恵や人材を生かした教育活動が可能となることが期待されております。

これまでの変遷を簡単にご紹介いたします。

まず、2000年に教育改革国民会議におきまして、国が「コミュニティ・スクール」の設置を提言いたしました。2017年に導入の努力義務化をいたしました。その年には全国で

3,600校ほど設置したということでございますが、2024年の時点では、全国で2万153校が設置している状況でございます。

中野区におきましては、2022年度より保幼小中連携を踏まえまして、中学校区を単位としまして、地域学校運営協議会を設置いたしました。同時に協議会を設置している中学校区の各学校に学校と地域団体、人材をつなぐ役割を担う「地域コーディネーター」という方を配置したところでございます。

中学校区単位で協議会を設置したということにつきましては、小学校と中学校が情報や課題を共有するため、より小学校と中学校の連携を踏まえた継続的な学校経営を行うことができるとか、他校の地域連携事例を学ぶ機会となるなど、お互いが持っている強みというものを共有しまして、自校の運営に生かすことができるといったメリットがありました。

しかしながら、反面、中学校区としてのテーマが中心となるため、各学校の個別の課題に対する取組など、具体性のある協議を行う機会が少なかったり、学校に関わる課題は学校固有のものが多いため、学校単位のほうが協議しやすいといった課題があることがわかりました。

そこで、令和7年度、今年度より話しやすさと認識の共有をさらに推進していくために、各学校、幼稚園ごとに「学校運営協議会」を設置することといたしました。

また、中学校区ごとには地域の教育課題や認識を共有する場として、「学校運営連絡会」というものを行うことといたしました。

学校運営協議会で話し合うことは主に四項目です。

一つ目は、目指す学校像・ビジョンの共有です。こちらは学校のゴールとなるべき目標やビジョンを協議会でまず共有し、話し合うとともに、方針というものを承認することにより、協議会として話し合う方向性を統一いたします。

二つ目は、課題と改善に向けた協議でございます。基本的な方針を踏まえた上で、学校の教育活動や学校運営の状況を確認し、その課題と解決に向けて話し合いを行います。

三つ目、具体的な取組に向けた協議でございます。さきの課題の解決に向けた話し合いを踏まえまして、学校と地域が連携して具体的にどのように取り組んでいくか、また取り組むに当たり、地域のどのような団体や人材の協力を得ていくかなど、実施に向けた話し合いを行っていただくこととなります。

四つ目は、教員像に関する協議でございます。基本的な方針やそれに基づく学校運営の現状を踏まえまして、学校に必要な教員像について話し合っていただくこととなります。

最後に、今後の方向性についてです。今年度、令和7年、新しい取組を今進めてきているところですが、今後、必要となってくると私たちが考えているのは、まずは学校運営協議会、地域コーディネーターという名称の認知度の向上だと考えております。

地域と学校の連携を進めていく上では、地域の住民の方々に、学校と地域がつながる場である学校運営協議会やつなぎ役となつていただく地域コーディネーターの方の存在をもっと広く知ってもらう必要があると考えております。

これまでも、区報や、またはテレビの取材などで周知を行ってきたところですが、今後、継続的に広報誌等を発行するなど取組を継続していけるような環境をつくっていきたいと考えています。

次に、連携・協働する地域団体または人材とのネットワークの拡充です。学校の状況に合わせた様々な連携を可能としていくためには、学校側がより多くの地域団体や人材と関わり、関係を築いていく必要があると考えております。

そのためには、地域と関わり、ネットワークを広げる役割である地域コーディネーターの機能を強化していきたいと考えております。現在は、各学校に1名を原則としている地域コーディネーターですが、今後は人数を増加するなど、地域コーディネーターを補佐する役割を創設できないかなど、体制の強化について、検討を図っていきたいと考えているところがございます。

次に、委員の学校運営に対する意識の醸成ということを考えております。委員の方々はPTAなど保護者のほか、町会の関係者の方や地区委員、民生委員・児童委員など、普段から学校と関わり合いがあり、地域のために学校とさらに関係を持っていきたいと考えていただいている方に今、参加していただいているという状態でございます。

しかし、学校と地域との関わりが、地域のためだけのものになってしまって、学校の負担となるということがあってはいけないなと考えているところがございます。

学校運営協議会は、学校運営をよくしていくための協議の場ですので、委員がそのような意識を見失わないよう、定期的な研修を実施していくとともに、委員が学校の教育の活動に触れ、学校運営に対する理解を向上していく機会を創出していきたいと考えております。

これらのほかにも、本制度は始まって間もないため、様々な課題が生じてくると考えております。教育委員会としましては、可能な限り現場に足を運び、校長先生や地域コーディネーターの方、また委員の方と連絡を密にすることで、状況の把握とよりよい制度運営に

向けて、取組を進めていきたいと考えているところです。

本件についての説明は以上でございます。

田代教育長

続きまして、本日の会場である中野第一小学校の三宅校長先生からお話を伺います。

三宅校長先生、よろしくお願いいたします。

三宅校長

中野第一小学校の三宅でございます。

ただいまより、コミュニティ・スクールについてご報告させていただきます。

私は、中野第一小学校の三宅と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、中野第一小学校について簡単にお話しさせていただければと思います。

本校は、明治8年、1875年、今からちょうど150年前に開校した桃園小学校と、昭和11年、1936年に開校の向台小学校の二つの伝統ある学校を統合し、平成31年、2019年4月1日に開校しました。開校7年目の学校となります。

令和3年4月1日に現在の地である旧桃園小学校跡地の新築した校舎に移ってまいりました。

通常級25学級と、特別支援学級（ひまわり学級）の3学級で合わせて28学級、児童数811名と、区内でも3番目の規模の学校でございます。

家庭数が657ありまして、PTA加入率もほぼ100%で、家庭からも地域の七つの町会からも大きく支えていただいている学校です。

この写真の奥に、都庁舎も見えております。人工芝の大変きれいな、中野の坂上にある立地にも、環境にも大変恵まれた学校として、皆様方に支えていただいている学校でございます。

今回、コミュニティ・スクールについて、本校の取組などをご報告させていただける機会をいただきました。大変ありがとうございます。

本校の目指す学校像、「喜びを生み出す学校づくり」に迫ることも踏まえ、地域とともにある学校の実現のため、このコミュニティ・スクールを実施しているところであります。

中野第一小学校のコミュニティ・スクールの構成は、町会長、地区委員会の副委員長、中学校区の次世代委員、主任児童委員、こども園の園長、PTA会長、前のPTA会長、あと校長・副校長と、事務局として主幹教諭、区の事務主査を構成員としております。特に委員長は町会長にお願いしております。副委員長は、次世代委員の方をお願いしているところ

で、地域のことがよくわかる方に取りまとめているところですよ。

また、地域コーディネーターについては、先ほども保積課長からもありましたけれども、前のPTA会長にお願いして、しっかり地域と学校を結びつけていただいている構成として、進めているところでございます。

年間のスケジュールとしては、ごらんのとおりでございます。年間5回の学校運営協議会のほか、様々な場面で協議会の皆様には学校の様子を視察、参加いただける場面を設定しております。

今、写真でごらんいただいているところは、協議会の第1回目の様子でございます。当日は保積課長にも参加いただき課長に撮っていただいた写真です。ありがとうございます。

コミュニティ・スクールで実現したいことということで、協議会ではこのようなことを確認させていただきました。それは、学校と地域が一体となって子どもたちを育むことです。将来を担う子どもたちを、地域総がかりで育むということを確認しております。

コミュニティ・スクールのざっくりとした図を作成いたしました。真ん中に子ども、ど真ん中に子どもがおりまして、それを学校、保護者、地域ががっちりスクラムを組んで、町会の皆様、PTAの皆様等々で囲んでいるという構図になっております。これは先ほど保積課長からも、ご説明があったところかと思えます。

本校の具体的な取組について、お話しさせていただければと思います。

明日、11月15日土曜日から26日まで、東京2025デフリンピックが開催される場所です。聞こえない、聞こえにくいアスリートのための国際スポーツ大会で、中野区立総合体育館でもテコンドーの競技会場となっているところは、皆様ご周知のところかと思えます。

その機運醸成を目的として、中野第一小学校で何かできないだろうか、教育委員会のほうから相談を受け、これをコミュニティ・スクールで何か実施できないかなということで考えました。子どもたちのために学校と地域が一体となり、心に残る取組ができればと思い、取り組ませていただきました。

8月30日でした。このような形で、写真のような形で取組をさせていただいたのですが、夏休み中にもかかわらず、多くの児童と保護者の方にお越しいただきました。また、民生委員の方、この赤いベストを着ていただいている方なのですから、だとか、主任児童委員の皆様、中野法人会の皆様、保護士、弥生地区、東部地区の地区委員会の方、もちろん町会長、町会の皆様、商店会、BBSの方、あと本校のPTA役員、おやじの会の皆様に運営などをご支援いただきました。

地域コーディネーターが間に入り、都や区の行政側と地域を取り持っていただき、子どもたちにとってとてもよい経験につながったと考えているところです。

また、これからの予定として、写真で見えていただいているのは、地域の敬老会の方との今までの取組の写真を、載せております。このような町会の敬老会の方との取組のつながりや、これは今年のお祭りなのですけれども、このようなお祭りとか、地域の行事に積極的に関わることができるようなことを地域コーディネーター、コミュニティ・スクールを通してできたらと考えているところでございます。

また、様々な出前授業にも関わっていただきたいと考えています。今見えていただいているのは、租税教室に中野法人会の皆様に税金についてお話しいただいたりとか、農業体験にＪＡ東京中央会の皆様に関わっていただいたりとか、心肺蘇生等の研修等に中野消防署、消防団の皆様に関わっていただいたりとか、こういうところをコミュニティ・スクールで関わっていききたいと、そう考えているところです。

また、教育課程を見ていただくことも大切だと考えています。普段の授業はもちろんですが、研究授業の参観や研究協議会の傍聴、教職員研修等への参加も考えていております。

11月12日には校内研究を実施いたしました。そのときにコミュニティ・スクールの委員の方、2名にも参加いただき、教員の研究の様子、どのように教職員が指導力を向上させているかというような取組を見ていただき、大変いい取組をしているという評価もいただいたところでございます。

また、学校には様々なところでお手伝いが必要となっています。例えばプールの補助、職員室の事務の補助、児童の支援員、宿泊などの補助、時間講師、担任業務の補助など、これらの仕事なども、コミュニティ・スクールで人材支援に関わっていただけると学校としても大変助かるなと考えているところでございます。

中野第一小学校の児童を一層元気よく、賢く、カッコいい子どもに育成してまいります。

今後とも、皆様のご支援、どうぞよろしくお願いいたします。

ご清聴、ありがとうございました。

田代教育長

三宅校長先生、ありがとうございました。

ただいま、事務局、小学校と続けて説明をしていただきました。

ここで、ただいまの説明や協議テーマに関しまして、教育委員の皆様から質問や感想な

ども含めてご意見を伺いたいと思います。ご発言はございますか。

伊藤委員

ご説明ありがとうございます。一つお伺いしたいと思いました。

子どもたちにとって魅力的な取組が増えているということで、大変うれしく思っております。

その中で、運営協議会ができたことで、こういった取組について、こういう部分がスムーズになったとか、これまでは可能でなかったかもしれないところが可能になったとか、そういった何か運営協議会ができたことの利点、効果のようなものが、もう少し具体的に教えていただける部分がございましたら、教えていただけると参考になるなと思いました。

以上です。

学校地域連携担当課長

これまでも、中野区は地域の方々にすぐお力をいただきながら、いろいろな活動がさまざま始まっているということも確認しております。

今回このように、形が明確になったことによって、よりスムーズに物事が進んでいくというお声をいただいているところでございます。

三宅校長

今、課長からもお話のあったとおり、今までのいわゆる評議員制度は、学校独自で行われていたような地域とのつながり等はもう十二分にあったところであります。

今回のこのコミュニティ・スクールという枠組みができたところで、今、課長も述べられたとおり、明確に、例えば役割分担が、「地域コーディネーターがこういうことをするんだよ」「じゃあ、委員長がこういう形で動いてくださいね」「副委員長はこうフォローしますよ」と、明確になったところは大変ありがたいと思っております。従来あったところでありますので、ここは中野区の歴史といいますか、そういったところが息づいている、そこをしっかりと枠組みしていただいたところかなと考えているところです。

以上です。

岡本委員

ありがとうございます。保積課長にまずお伺いしたいのですが、先ほど、三宅校長先生から、中野第一小学校は年間5回、運営協議会を実施されているというお話があって、各校をちょっとずつごらんになっていると思うのですけれども、そういった実施状況などを把握していらっしゃいますか。

例えば、実施回数であるとか、あとはどんな協議内容であるとか、そういったことを把握していらっしゃるかを教えてください。

また、それをこういった教育委員会定例会の場や、あるいは各校の学校運営協議会に共有していく、そういったこともご予定かどうかを教えてください。

学校地域連携担当課長

本当に各校様々とは思っております。今年は3回というところが多いのかなと認識しているところです。

あるところに関しましては、3回というのは初め決まっていたのですが、さらに1回追加をしようとする場で決まりまして、お話が進んでいるというところを見受けたところでございます。

例えば、それまで英検や、漢検について、学校で実施していたところを、地域の方で行うということを校長先生から提案をされるなど、新しい取組が始まったというところも確認しているところでございます。

こちらの学校でも、先ほどデフリンピックへの機運の醸成のような、新しい取組もされています。また、あるところでは、区の防災危機管理課と取組を一緒にやって、5年生に対して、放水を実際に見せたりですとか、災害のときはこうやってやるというような授業を行ったところもございます。

今後に関しましては、お互いが取組を見られる機会を設けたり、可能であれば他自治体の協議会も見に行けるような機会を設けたいと考えています。

岡本委員

ありがとうございます。私も以前に三鷹の協議会を見に行ったのですが、本当に衝撃を受けました。ぜひ、他自治体に学びたいと思います。

三宅先生にもお伺いしたいことがあるのですが、先ほどのご報告のお話の中で、委員が先生方の校内研究や授業研究をご一緒されているということ、私とてもポジティブに受け止めました。各委員はそれぞれのバックボーンを基に貢献等していくことが期待されていると思うのですが、とはいえ、今の教育で、どんなことが進められているのかとか、どんな授業をしているのかということを知らずに、自分の経験だけで発言をしては、なかなか貢献にも限度ができてしまうのかなと思っていたためです。

そういった意味で、先ほど校内の中のお話はあったのですが、広く、例えば今の教育改革はこんなことを進めているといったことや、授業では主体的・対話的で深い学びが

目指されていて、中野第一小学校ではこういうことをしていますよみたいな、そういうインプットする機会があるのかどうか、教えていただけますか。

三宅校長

現状、いろいろ考えています。

まず、私は、学校だよりあるいは全校朝会等でいろいろ発信させていただく機会を基に、教職員や、子どもたちに、学校だよりと、ホームページ等も踏まえて、地域、保護者に発信していくものだと考えております。

今回、次期学習指導要領の、素案が出ていたところですが、それを踏まえて、私なりに分析したところを学校だよりに書かせていただきました。そういったところで、地域の皆様方にも情報発信はさせていただいております。

この間、研究授業にコミュニティ・スクール委員の方も参加いただいたのですが、ぜひ校内でも有識者、大学の教授の先生など、そのような方をお呼びするときに、コミュニティ・スクールの皆様にもお声がけさせていただきながら、一緒に研鑽を深めていけたらと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

岡本委員

ありがとうございます。とても期待していますし、教育委員会としても何か委員向けにそういう発信、インプットもあってもいいのかなとちょっと思いました。ありがとうございます。

高野委員

中野第一小学校の取組、非常にすばらしいと思いました。ありがとうございます。

こういった取組は一朝一夕にはできないものなので、恐らくコミュニティ・スクールが始まる前から地域と非常によいつながりがあったのではないかと思います。やはりそういうことでよろしいのでしょうか。

三宅校長

そのとおりです。

高野委員

あともう1点、校長先生にお伺いしたいのは、こちらは全てボランティアでやっているものなのでしょうか。いろいろ、これを見ると、手話の通訳さんであったりとかも参加されているようなのですけれども、皆さんボランティアでやっているのでしょうか。

三宅校長

ケース・バイ・ケースもありますが、しっかりそこは中野区の教育委員会のほうで、例えば有償のボランティアであったりとか、時給であったりとか、あるいはまた会計年度任用職員さんであったりとか、そこは適切に対応していただいて、全くの無償でということではないところは、すごく区の教育委員会のほうでも対応していただいているところです。

高野委員

ありがとうございます。

もう1点、保積課長にお伺いしたいのですが、地域で解決している、地域で取り組んでいる課題についてはいいと思うのですけれども、教育委員会のほうに要望なりがあった場合のフィードバックはどのように行うことになっているのでしょうか。

学校地域連携担当課長

学校運営協議会で出た話について、私たちが取りまとめをしまして、適切な部署におつなぎすることになります。

高野委員

ありがとうございました。

平本委員

三宅校長、ご説明ありがとうございました。コミュニティ・スクールができたことでより明確化できたというお話もありましたが、目指す学校像をしっかりと共有した上で、地域と総がかりで将来を担う子どもたちを育むという形で、非常に目線合わせがしっかりできている点が大変すばらしいなとお話をお聞きしていて思いました。

また、校長先生から、子どもたちを真ん中に据えた上で、皆さんでスクラムを組むというようなご説明もいただいたと思うのですけれども、コミュニティ・スクールができたことで、そういった部分がより皆さんしっかり、がっちり、気持ちの面でも共有できるようになったのかなと、お聞きしていて思いました。

子どもたち自身が、学校が地域とともに存在しているのだということをいろんな面で実感していきながら、自分たちも地域のために何か役に立ちたいという気持ちを育んでいけるとよりよいのではないかなとは思っております。

その観点でのご質問なのですが、きちっとできてきたコミュニティ・スクールの存在について、子どもたちが今どのような受け止めをして、捉えているのか、もし何か具体的なエピソードがあれば教えていただきたいと思います。

また、先生方のほうでも、子どもたちの理解の促進や発信の面で、何かこれまでと変えているとか、工夫しているところがありましたら、それも教えていただければと思います。

三宅校長

ありがとうございます。今、平本委員、おっしゃるとおりで、ただ、子どもたちにとってみれば、ごくごく普通に学校に来て、コミュニティ・スクールがあるから自分の今の、学業や、給食を食べるということが、コミュニティ・スクールのおかげだというのは、多分子どもたちは思っていないと思います。

というのは、ごくごく当たり前に来る環境を学校が整える、それをコミュニティ・スクールの皆さんが支えてくれて、子どもたちにとっては安心・安全の場所。と考えているので、そこはちょっと今後の課題かなと思っています、子どもたちが。

ただ、いつも子どもたちに話しているのは、地域、今、小学校の同じコミュニティにいるのですけれども、例えば中学校に行ったら、本校でしたら第二中学校や中野東中学校、あるいは私学に行く子もいるのですけれども、高校、大学とつながって行って、ばらばらになるのですが、また絶対に戻ってくるのですよね、地域に。そのときに、「いや、皆さんは、この地域にまた戻ってくるんだ」。なので、中野本郷小学校も同じ学区にあります。例えば、塔山小学校も、もしかすると関わっている子どももいるかもしれません。「君たちはこの地域で大人になって、この地域を支えていくんだ」というのは、例えば運動会のときであったりとか、今度の学芸会のときだったりとか、そういうことをやっぱり常に発信していけないといけないのは、校長としての役割なのだろうなと思っています。

そういったところを子どもたちに啓発しながら、しっかり伝えていかなければならないと思っています。

ただ、子どもたちは多分コミュニティ・スクールのおかげで今、学校が回っているのだというのは感じていないかもしれないので、コミュニティ・スクールの委員の方たちを適宜紹介しながら、この方たちに、あるいは民生委員さんたちに支えてもらっているのだよというのを、これは校長としてしっかり伝えていきます。

あと、職員なのですけれども、職員も同じように、やはりコミュニティ・スクールの現状を、状況等は逐次説明するようにしていますので、そういった意味では、教員も、今日もこの地域の教育委員会があるというのも、教員はすごくそこは意識しておりますので、そういったことでしっかり校長として、管理職として情報発信しながら、取りまとめていきたいなと思っていますところです。

平本委員

ありがとうございました。子どもたちが将来戻ってくるというお話もありましたが、他校では例えば、協議会の中に卒業生とかを具体的に取り込んで、一緒に入っていただくというような話もあると聞いたことがありましたので、そういう実例も増やしていくと、より子どもたちが実感しやすいのかなと思いました。

三宅校長

ありがとうございます。

伊藤委員

ありがとうございます。今の話題はとても大事だなと思っております。今年はまだ始まったばかりかとは思いますが、来年以降、ぜひ、この例えばデフリンピック関連の夏休みの行事なども、この行事はこういった方々が支えてくださって、ご協力によってできましたとか、そういったことを少しお話しいただけるだけでも、子どもたちの意識がそういう点に向くかなと思いますし、ぜひ民生・児童委員の方々のご紹介などしていただけると、顔見知りの方が、地域でそういう役割を担ってくださっているのだなという意識もできると思います。本当に、地域の中に学校を支えてくださる、また地域を支えてくださるいろいろな方々がおられて、みんなで地域をつくっているということを実感できる、すばらしいチャンスだと思いますので、ぜひお願いできればと思いました。

それに少し関連するかなと思うのですが、今回、中学校区での運営協議会から小学校のみという形に移行してきた中で、特にこういう点は違ってきたとか、身近になってきたとか、何かあったら教えていただけたらと思いました。

先ほど、運営協議会があることでどういうよさがありますかということをご質問させていただいたのですが、さらには、比較ができないかもしれないのですけれども、小学校での設置というところで、何か特徴があるのかどうか、伺えるといいなと思いました。

以上です。

学校地域連携担当課長

中学校区で言うと、やはり範囲が広いということで、話すテーマとかが少し広くなり過ぎていたというところを聞いております。そのため、皆さんが集まっても、より具体的な話でというところがなかなか難しかったということ聞いております。

今年度、各学校を回らせていただいている中では、こどこの道が危ないとか、そういう具体的な情報共有であったりというところから話が始まっていて、子どもたちのというところ

ろがよりイメージしやすく、話しやすいという状況が見受けられているというところは、一つ、今年大きな特徴だったのかなと感じているところでございます。

三宅校長

そのとおりというとなんのですけれども、しっかり学校も対応していきながら、頑張っていきたいと思って。中学校区というまとまり、現状もちゃんと、去年までやっていたから今年やっていないということはありませんので、校区の次世代委員さんもしっかり担当してくださっていますので、連携しながらやっているところです。

岡本委員

これからどんどん発展していくということの前提で、現時点での確認なのですが、先ほど保積課長から、学校運営協議会で話し合うこととして、目指す学校像、ビジョンの共有というご報告がありまして、これはもちろん前提としてそうなのですが、共有という言葉だと、校長先生がお持ちのビジョンをその場で委員に伝える。それで「わかりました」となる、こういったイメージを私は抱きました。

地域で、みんなでつくっていくのであれば、目指す学校像やビジョンも、将来的にはその場でまた逐次こういったビジョンがいいのではないかと、こういった学校像を目指していきましょうと、学校運営協議会の場で捉え直して、話し合っていくこともあっていいのではないかなと、私は個人的には思っているのです。

三宅校長先生、そのあたり、どう思われますか。

三宅校長

岡本委員のおっしゃるとおりだと思います。子どもたちも年々、この中野区の中野坂上の子どもたちなのですから、やはり学年によってもちょっとカラーも違いますし、例えば地域だと、この弥生地区から来る子が多かったら、それなりにやっぱりいろいろ、年、年によって違うと思いますので、その状況、状況に合わせて対応していく必要があるかと思えます。

そこは、アンテナを高く、子どもたちの動向など、そこは管理職と学校側がまずしっかりそこを受け止めるような、キャッチできるような体制というのが必要なかなと思っています。

学校地域連携担当課長

学校の方針というのは、基本的には、学校の校長先生の権限において決まっていくのですけれども、これについて学校運営協議会のほうで、承認するというような形で、進めてい

くということになってございます。

その際に、学校運営協議会の皆様からは、意見をいただけるような機会というのはありますので、校長先生の権限の下というのがありますけれども、一緒につくっていくという場面はあります。今後よりまたそういう機会が増えて、よりよいものになっていくのかなと考えておるところでございます。

伊藤委員

先ほど、今後のことの中で、たしかそういう支えてくださる方をサポートするような役割とかシステムとか、あるいは地域の中での何かなのかもしれませんが、そういうことも、今後はさらに課題ではないかというお話があったかと思います。いろいろな地域で、その地域、地域の状況で、様々なシステムを工夫されていると思います。そのことで、より円滑にあるいは幅広く、様々なサポーターを学校が得ることができ、学校の先生方の教育活動がさらに活性化していく、あるいは支えられていくということがいろいろな地域の報告からも読み取れるなど考えているのですが、特にこの中野、あるいはこの学校の中で、もう少し具体的なイメージとして教えていただくとしたら、どういうサポートシステムが必要と感じておられるか教えていただけると、今後の役に立つかなと思いました。

学校地域連携担当課長

地域コーディネーターの方というのが、やはりとても重要だと考えております。

まず一つは、現在は、地域コーディネーターの方の、これまでのコミュニティに頼っているところもありますので、万が一、その方が1年後、2年後抜けてしまった場合、今後の継続について心配しているところでございます。

そのため、サポートという点で、その方が抜けたとしてもコミュニティ・スクールが継続するようにサポートを行う必要があるということが、思っているところでございます。

また、2点目に関しましては、例えば新しくNPOですとか、様々な協力したいとおっしゃっていただけるような方もいらっしゃいますので、そういう方々から新たに協力を得られる機会を作れるようにということを今考えているところでございます。

三宅校長

今、課長のお話を伺って、また、本校もいっぱい支えてもらえるなというのを力強く感じたところです。

以上です。

平本委員

「協議会の転換」という資料の中に図があって、わかりやすかったなと思うのですが、学校運営協議会が各学校にあって、学校運営連絡会というのが共有の機能を果たして、ハブのような形になるのをイメージさせていただいていたのですが、現在、学校運営連絡会でどのような進捗があるのか。これからなのかもしれないですが、私がまだ詳しくわからないので、そこをぜひ教えていただきたいなと思っています。

また、先ほど伊藤委員からも、その地域コーディネーターのところの補佐という話もあったのですが、場合によっては学校運営連絡会の中で出た、共通する課題なんかを一緒に解決していくような、学校横断型の地域コーディネーターというのでしょうか。各学校に1名という形ではなくて、地域コーディネーターの役割も広げていくということもあり得るのかなと思ったのですが、もし何か具体的に今考えていること、検討していることなどあれば、教えていただきたいと思います。

学校地域連携担当課長

学校運営連絡会というのは情報連携をする場と考えているところです。連絡会というのが、まずお互いに情報共有することによって、良いところを自分たちに受け入れてもらう。あとは、例えば、ばらばらにやっている活動は効率的に実施することもあると思います。そのようなことを目的として、連絡会というのを、設置を考えているところでございます。

今、連絡会が1か所、2か所ぐらいで行われたところでございます。緒になにかやろうというような話はまだ出ていないです。お互いの情報交換をして、「あっ、それいいね」というような話が出ていたというようなことを私は記憶しておりますので、今後さらによりよくというところがあれば取り入れていただいて、どんどん変えていって、皆さんの声を聞きながら改善していきたいなと考えているところでございます。

高野委員

まず校長先生にお伺いしたいのですが、中野区内どこでも外国籍のお子さん、あるいは外国にルーツのあるお子さんが増えてきていると思うのですが、現在の状況、それとそういうお子さんたち、あるいは保護者の方が、こういうコミュニティ・スクール、あるいは地域の活動にどのように参加していただいているか、現状をお伺いしたいと思います。

三宅校長

今手元に資料がないのでざっくりとしたところで恐縮なのですが、確かに委員おっしゃるとおり、この中野坂上駅周辺という立地の条件、大江戸線があって、丸ノ内線が

走っているという立地ゆえか、かなり外国にルーツのある方、または何かしらで関わっているお子さんが多いのは事実です。多くなっています。

実際に今、何かしら日本語支援が必要なお子さんは複数名います。中野区の場合は、ANICという、いわゆる外国の言語等の支援をしてくださっている団体がございまして、その方がしっかりサポートしてくれていますので、全くしゃべれない子もやっばり中には年に数名転入してきます。子どもたちのコミュニティの中で、しゃべれるようになっていくなというのはすごく感心しているところです。

そういった子ども、全くしゃべれないという子は正直今、本校ではおりません。今ご質問の、家庭がどうコミュニティとして参加してくるかというのは、そのコミュニティ・スクール以前に、PTAがしっかり機能してしまして、PTA組織の中で、お互いに支え合ってくださいたりとかしているものですから、正直学校のほうで何かしら、ここの外国の方の家とつながらないので、どうにかしてほしいとかというお尋ねというか、困り事というのは、今学校にはないところです。

なので、そのコミュニティ・スクールに、もちろん何かしら今後必要になってくることも予測されますので、今、委員からいただいた課題というのは、対応できるようにしていきたいなと思っております。

高野委員

ありがとうございます。やはりPTA加入率が100%近いということなので、そういう外国にルーツのあるお子様のご家庭も参加していただいているということによろしいでしょうか。

三宅校長

はい。

高野委員

あと、保積課長にも、そういった外国籍の方に対する、外国にルーツのある方に対する取組とかは、どのようにお考えでしょうか。

学校地域連携担当課長

今私たちが考えているのは、先ほどお話しした学校運営協議会や、コミュニティ・スクールという言葉をどんどん広めていきたいと考えています。

その周知を行うときに、やはり日本語だけではなく、いろんな言葉で伝えられるような工夫をしていくことが大切と考えています。

高野委員

ありがとうございます。

岡本委員

質問ではなく、意見になってしまうかもしれませんが、保積課長のご説明の1枚目の「コミュニティ・スクールとは」で、地域の知恵や人材を生かした教育活動が可能となると。これはそのとおりで、この場は教育委員会ですので、学校から見たコミュニティ・スクールの説明になると思うのですけれども、地域の側から見たときのコミュニティ・スクールって何かというのも、一応考えたいなと思っています。どうして地域が学校を支えるのか、それはやっぱり地域にとって、学校が必要だからですね。

スクール・コミュニティという言い方もされることがあると思います。学校を核として地域をつくっていくこと、あるいは地域全体が学校となるという発想もあると思います。まちからすれば、まちづくりのために学校が核となって、自分たちのまちが出来上がっていく。そういった観点もあると思いますので、ただ地域の人が学校を支えるためだけの場ではないということを確認しておきたいと思って、今発言をさせていただきました。

学校地域連携担当課長

その件につきまして、岡本委員がおっしゃるとおりかなと思っています。

学校運営協議会というのは、地域のためにやるというよりは、子どもたちのために何がいいかというところで、まず議論が生まれるところではございます。その派生した効果として、地域にもよい効果が生まれてくることを意識しながら進めていきたいと考えているところでございます。

岡本委員

今後の方向性のところで、最後に、委員に対する研修とか学校とつながる機会の創出ということを書いていただきまして、私も先ほどから今の教育のトレンドとかも、ぜひそういう機会をとということを申し上げたのですが、学校の先生方と一緒に研修を受ける機会というのも考えていただきたいと思います。

校長先生方、様々なお考えがあって、それを基に学校運営をされていると思うのですが、委員も、もちろんそれも知りたいですけれども、地域の思いもあります。地域の思いと校長先生の思いを、まずは目線合わせするための場があるといいなと思いました。それはちょっとコメントです。

あと、広報活動なのですけれども、これって本当に教育だけではなくて、もうあらゆる場

でもそうだと思うのですが、届かない人にしか届かないのですよね。それはやっぱり自分事ではないと思っているからだと思うのです。

学校運営協議会は、地域の人を自分事にする仕組みだと思うので、ただ、これまでのように通信を出しました、ホームページに載せました、では届かないので、自分事を増やすためにどうするかみたいな観点から、何か仕組みを作ればいいなと思いました。私も考えていきたいと思います。

以上です。

学校地域連携担当課長

ありがとうございます。教職員の方々と何かということも考えてはおりますが、お忙しいところもありますので、どのような形がいいかも含め、今後考えていきたいと思っております。

田代教育長

よろしいですか。それでは、協議を終了するに当たり、私のほうで今日の話合いを簡単にまとめさせていただきます。

本日の発表では、コミュニティ・スクールの制度的な背景と中野第一小学校での具体的な取組を紹介していただきました。

中野第一小学校の取組では、デフリンピックを契機としたカウントダウンツアーや、地域行事への積極的な参画、出前授業や農業体験など、子どもたちが地域とともに学ぶ姿が多く見られ、すばらしい事例でした。こうした取組は、子どもたちにとって一生の財産になるのではないかと考えています。改めて、学校と地域が一体となって子どもたちを育むことの重要性を実感されたことと思います。

コミュニティ・スクールは単なる制度ではなく、地域の知恵や人材を生かし、子どもたちに豊かな学びと成長の場を提供する仕組みだと思いました。本日の事例からも、学校運営協議会や地域コーディネーターの存在が学校と地域をつなぐ大きな力になっていることがわかりました。

地域の方々には様々なご支援を今後もお願いすることになると思いますが、中野区教育委員会といたしましても、学校と地域がともにある学校を実現するための支援を強化し、安定的な連携・協働の体制づくりに努めてまいります。ありがとうございました。

それでは本協議会を終了いたします

ここで会議を一旦休憩して、傍聴者の方々からもご意見などを伺いたいと思います。

それでは会議を休憩いたします。

(午前 11 時 00 分 休憩)

(午前 11 時 13 分 再開)

田代教育長

会議を再開いたします。

本日は、傍聴されている方々からも様々なご意見をいただき、ありがとうございました。

本日開催いたしました地域での教育委員会の狙いは、直接地域に住んでいる方々や学校の方とお話しする機会を得ることでもあります。地域の現状を知るためには、やはり具体的にお話を伺うことが必要であると考えております。

本日の会議は大変に有意義なものとなりました。今後の教育行政に生かしていきたいと考えております。

それでは最後に、事務局から次回の開催について報告をお願いいたします。

子ども・教育政策課長

次回の教育委員会は、11 月 28 日金曜日 10 時から、区役所 7 階教育委員会室にて行います。

なお、諸事情により変更になる場合がございます。中野区ホームページにてご確認をお願いします。

田代教育長

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第 31 回定例会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

午前 11 時 14 分 閉会